

あとがきに寄せて

Hakai、何をいったい破壊しないといけないのであろうか。

破壊した後何が生まれてくるのであろうか。Hakaiは、新しい社会を創造するために、必要なものであろうか。

今、破壊しないといけないのは、我々の常識と既成の概念である。日本は、戦後、飛躍的な経済成長を成し遂げた。人口も大きく伸び、どの国も経験したことがない経済成長を実現し、世界の経済大国の仲間入りをして、ここ数十年君臨してきた。そのような中で、我々は豊かさを享受し、一見、幸せな生活を送ることができてきたかもしれない。

しかし、そのような経済的な豊かさの源は、すでに崩壊し始めている。いや、もともとが幻想だったのかもしれない。一気に成長した国は、崩壊する速度も速いかもしれない。そのような中では、価値観を一気に変化させて、新しい豊かさを追い求めていくことが重要かもしれない。

人口減少・高齢化、経済成長率の低下といった、戦後、日本が追い求めてきたものと逆のベクトルが働くことに対して、多くの人が不安を感じる。しかし、これをきっかけとして、今まで、人口増・経済の高度成長によって諦めてきた多くのことを取り戻すことができるかもしれない。

戦後の都市計画を描いたときは、グリーンベルトを創造し、人が住まうところと保全するところを明確に分離しようとした。しかし、そのような理想は、人口増と急速な都市化の進展によって、スプロール化の進展といった形で、無秩序な都市形成を許してしまった。高度経済成長に伴う土地価格の急騰は、貧相な建物を大量に生産させることとなり、それでも十分な住宅を国民に対して提供することができなかった。

しかし、新しい局面を迎えて、我々は本来の理想とする住空間を取り戻すことができる可能性が見えてきた。土地が余る中で、その土地を空間として再生させることもできる。土地価格が平準化することで、建物に投資をすることができる。われわれは、住宅を資産としてではなく、幸せをもたらしてくれる、経済学の言葉で言うと効用をもたらしてくれる財として、改めて定義しなおさないといけないかもしれない。このような再生には、劣悪な形で創造した都市空間と建造物の除却を円滑に進めながらやらなければならないという課題も突きつけられている。

Hakaiの向こう側に、新しい世界が広がっていると信じたい。

清水千弘（麗澤大学経済学部 教授）

感謝をこめて

本来であれば「ハ会」のきっかけを作ったブルースタジオ・石井氏やリクルート住宅総研・島原から活動報告書発行にあたっての謝辞を述べるのが適当だろうが、縁あって形に残す役目をリクルート住宅総研が引き受けたこともあり、私から感謝の言葉を述べることにする。

会の中でのプレゼン、レギュラーパネラーの振り返りや本報告書に記した提言やまとめからも分かるように、今の市場で起きている様々なストック活用の動きをみれば、言葉としての住宅政策の方向転換にとどまらず、市場変化が進行している兆しは十分に感じることができる。一方でフローからストックという変化に対して業界内部における十分な理解と準備が進んでいるとも言い切れない、と感じる場面もまだまだ多くある。そうした緩慢な状態をいつまでも見過ごせない、と考えた冒頭の二人の、ある意味ちょっとした遊び心がきっかけとなって起こった運動体が「ハ会」であった。

テーマの重さや大きさと、思い立ちや手法の軽やかさの関係を考えると、無謀にも見える「ハ会」活動であったが、その活動過程から想像以上の手ごたえを感じたことがあった。集合知の可能性である。そもそもの自分たちの思いや問題意識をより多くに広げたいと強く願って始めたことではあるものの、どこまで広げられるのか、どの程度の関

係者を巻き込めるのかについて確たる自信もない船出であった。しかしシンポジウムの開催を重ねるごとに、あるいはツイートがツイッターにあふれるごとに、我々も思いもよらぬほどの“関わり人数の短時間での拡大”を生み、“核心をついた問題提示や意見が同時多重的に飛び交う”状況を目の当たりにすることになった。諸外国におけるソーシャルメディアの影響力和それがもたらす変化の大きさを実感する中、「ハ会」で見た現場に裏付けられた確かな知見の集積による活動、提言は、国内のしかも不動産・住宅というわずか一産業に対して将来的な大きな変革をもたらす影響力を持っていることは間違いないであろう。

改めて「ハ会」レギュラーメンバーからの気持ちを表すとすれば「感謝」という一言に尽きる。未来の市場を創ってゆくために必要なことを議論する場としては、まだ不十分な場であったかもしれない。それにも拘わらず毎回遠方から参加していただいた方々、USTREAMを視聴いただいた方々、賛同の意見を頂いた方々、我々の知見不足を指摘し補ってくださった方々、あるいは常に疑問や対峙の視点を提示し続けていただいた方々…僅かな関わりであっても、賛同、否定であっても、今回の「ハ会」活動に関わったすべての皆様にあらためて心からの感謝と御礼を申し上げる。

2011年3月

リクルート住宅総研 矢部